

佛様ご道すがら

田代 静山

凡夫 もう私はこの世に生きて行くのが、苦して厭になりました。生くるに必要な、求むるものが得られない爲めに……。いつそヒト思ひと思ひますが、死ぬことすら罪業の深い奴で許されませぬ。ごうぞ、この私を御救ひ下さいまし……。

佛様 御前も苦しいか、いやわしも苦しくてく／＼ならない。

凡夫 ヘエ……。苦しむのは凡夫ばかりと思ふておりましたのに、では、やつぱり佛様にも苦しみはおありでございますか？

佛様 あるともく。お前たち一切衆生が救はれてくれねば、わしは夜も安樂には眠られぬ。お前達の罪苦のうめき聲が、澄みきつたわしの胸に響い來て夜る晝なしにキリ／＼と痛む。

凡夫 あれまア、そんなに痛みでございますか。

佛様 痛い／＼、子供は、子供一人分の苦しみで濟むが、十人の子供を持った親は、十人分苦しまねばならない。一切衆生の罪苦を背負ふてゆくわしの苦しさは又格別ぢや。一刻も早く救はれて

くれ頼むから。頼むといふのは本願だ、本願といふのはわしの願ひぢや、わしの頼みぢや。

凡夫 頼みとは勿体ない。ハテ如何うしたら救はれるのでございませう！ その手續は！

佛様 孤兒院ではあるまいし、願書も手續きもいるものか、さアト思ひに、わしの懐へ飛び込め、飛びこんでくれ、さうすれば無條件で救つてやる。

凡夫 と仰しやつても、どうしてもこの苦しみが退けられません。取れません。

佛様 困つた奴ぢや、仕方がない、苦しみを背負ふたまゝで飛び込め。

凡夫 はア。ワン、ツウ、スリ！ さア飛び込みましたぞ。

佛様 ヨク来てくれた、何んと楽になつたか！

凡夫 ねエ佛様、相變らず苦しうございます。

佛様 ハテナ、そんな筈はないが、ドレ〜お見せ。

凡夫 佛様……。

佛様 アハ、。何んのことぢや、お前は汽車に乗つてからも相變らず荷物を背負ふてをる田舎者みたいに、わしの懐へ入つても矢つぱり苦しみを抱けてをるのう、それではいつまで経つても苦しみは抜けまい、さア〜遠慮はいらぬ、わしが代つて荷物を運んでやるから、その腰掛にかけなさい。

凡夫 私もさつきから、さう思つておりますが、何んとしてもこの苦しみが離れません。

佛様 ははア……成る程、お前の苦しみは、瘤のやうにコビリ着いてる。これは前世の業報といふ奴ぢや、人間の相すがたとしての約束ぢや……。

凡夫 佛様のお力で、取つて下さい。取れる見込はありませんか。

佛様 取つて遺るに譯はないが、お前は未だ浮世の樂のしみにあこがれてる。そしてこの瘤は樂みの種ぢや。その大切な種を抜き取つては却つて不憫だから大切にかついでゆけ。

凡夫 どうも重苦しくて堪へられません。何んとかして、樂しみはそのまゝに、この苦みだけ抜いて頂けませんか。

佛様 さて〜我がまゝな奴。苦樂といふものは一ツの兩端だ、さう旨い具合には行かぬ。よし〜斯ふして中味をかへてやらう。

凡夫 おや不思議やな……。同じ苦しみの姿であるのに、この輕さは何んとしたことでしょうか。う。

佛様 さればぢや。今までお前は自分獨りの樂しみを得る爲に苦しみをかついで居たが、それをわしの持つてる苦しみに入れ替へてやつたのぢや。そしてわしの苦しみは衆生を救きたい、一緒に生きて行きたい一念の苦しみぢや。衆生救濟のためには地獄のドン底に墮ちても退ひせぬのが、

わしの大道ぢや。おまへも今日から衆生救済の苦を背負ふて居るのだと知るなら、その苦しみの儘が樂しみとなるであらう。衆生と共にく幸ひに生きて行くのが佛心ぢや。佛心とは衆生を助けたいと言ふ心のまゝが佛心ぢや。おまへの行く道は生佛不二凡聖一如にあるのぢや。同じ苦患の身体が三毒充つぱいになつて居れば苦しい、佛心が満つれば風船玉の様になる。解脱の一路はここにある。

